

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報

第3号

果樹

発行日 平成26年5月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ りんごの開花は平年より2日前後早くなりました。4月中下旬の低温等により、サビ果、奇形果の発生が懸念されます。果実の状態を見定めつつ摘果作業を急ぎましょう。
- ◆ ぶどうの生育も平年より数日進んでおり、今後の気温の推移により生育がさらに進むことも考えられます。計画的に開花期前後の管理を進めましょう！

りんご

1 生育概況

県内の定点観測調査結果によると、3月下旬から4月は気温が平年より高かったため発芽・展葉は平年より早く進み、その後の気温も平年並みからやや高く推移したため、ふじの開花は平年より2日前後早くなりました(表1)。つがるやジョナゴールドも平年より2日ほどの早い生育となっています。また、4月12~14日、4月17~20日の低温により凍霜害の被害が見られた地域もあります。

開花期間中は好天に恵まれたため(図1)、結実は概ね良好と思われませんが、4月中下旬の低温による雄しべ、雌しべ、果軸などへの障害の発生、開花期間中の強風による訪花昆虫の活動不良等により、地域によっては結実率に差が生じる可能性があります。

表1 定点観測地点のふじの開花状況(5月23日現在)

市町村	開花始(月/日)			満開期(月/日)			落花期(月/日)			開花期の平年・前年差(±日)					
	本年(H26)		前年(H25)	本年(H26)		前年(H25)	本年(H26)		前年(H25)	開花始		満開期		落花期	
	本年(H26)	平年	前年(H25)	本年(H26)	平年	前年(H25)	本年(H26)	平年	前年(H25)	平年差	前年差	平年差	前年差	平年差	前年差
岩手町一方井	5/9	5/12	5/19	5/12	5/15	5/22	5/16	5/20	5/26	-3	-10	-3	-10	-4	-10
盛岡市三ツ割	5/6	5/9	5/16	5/8	5/12	5/19	5/14	5/17	5/24	-3	-10	-4	-11	-3	-10
紫波町長岡	5/4	5/7	5/14	5/7	5/11	5/18	5/13	5/16	5/23	-3	-10	-4	-11	-3	-10
花巻市上根子	5/3	5/7	5/16	5/8	5/10	5/18	5/12	5/15	5/22	-4	-13	-2	-10	-3	-10
北上市更木	5/3	5/7	5/13	5/7	5/10	5/17	5/12	5/15	5/21	-4	-10	-3	-10	-3	-9
奥州市前沢区稲置	5/2	5/3	5/10	5/5	5/7	5/14	5/10	5/12	5/18	-1	-8	-2	-9	-2	-8
奥州市江刺区伊手	5/7	5/9	5/16	5/11	5/13	5/19	5/15	5/17	5/24	-2	-9	-2	-8	-2	-9
一関市花泉町金沢	5/3	5/5	5/11	5/7	5/9	5/16	5/13	5/14	5/21	-2	-8	-2	-9	-1	-8
一関大東町大原	5/6	5/8	5/14	5/10	5/12	5/18	5/15	5/17	5/22	-2	-8	-2	-8	-2	-7
陸前高田市米崎	5/3	5/4	5/8	5/7	5/10	5/14	5/12	5/15	5/21	-1	-5	-3	-7	-3	-9
宮古市崎山	5/5	5/8	5/13	5/10	5/12	5/19	5/16	5/18	5/25	-3	-8	-2	-9	-2	-9
岩泉町乙茂	5/5	5/8	5/13	5/10	5/12	5/18	5/17	5/17	5/24	-3	-8	-2	-8	0	-7
洋野町大野	5/10	5/13	5/21	5/13	5/16	5/24	5/17	5/21	5/27	-3	-11	-3	-11	-4	-10
軽米町高家	5/6	5/11	5/18	5/11	5/15	5/22	5/15	5/19	5/27	-5	-12	-4	-11	-4	-12
二戸市釜沢	5/4	5/9	5/14	5/8	5/13	5/21	5/14	5/17	5/27	-5	-10	-5	-13	-3	-13
県平均(参考)	5/5	5/8	5/14	5/8	5/11	5/18	5/14	5/16	5/23	-2.9	-9.3	-2.9	-9.7	-2.6	-9.4

2 摘果

(1) 本年は開花がやや進んだものの、全般に開花数が多いことから小玉果が懸念されます。そこで、あら摘果をできるだけ早めに行い、果実の生育を助けるとともに、隔年結果を防ぐことが重要です。なお、花芽率は平年並みからやや高い状況でしたが、昨年の夏季は長雨により、日照時間が非常に短かったため、地域によっては弱小花芽が多く、開花についても1園地内や1樹内ではばらつきが見られています。各自の園地状況を確認し、品種構成や労力等に応じた作業スケジュールを立て、計画的に摘果作業を進めましょう。

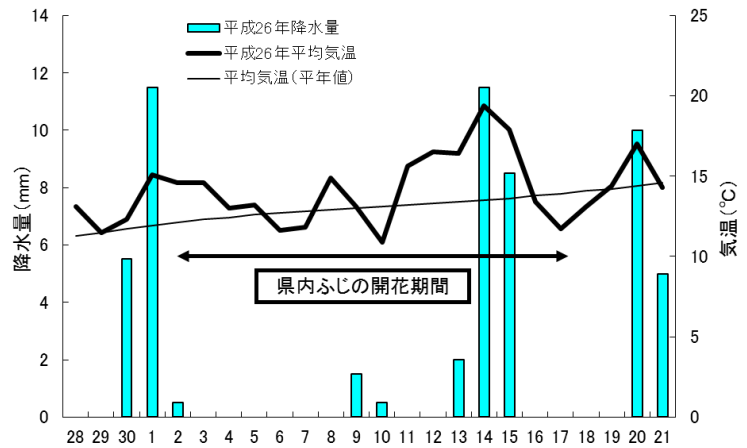


図1 開花期間中(5月)の気象経過
(アメダス盛岡観測点)

凍霜害の被害を受けた園地では、被害様相が明らかになり結実を確認してから摘果を実施します。また、結実してもサビ果、不正形果が出るので、あら摘果は多めに残し、仕上げ摘果で良い果形のものを残すようにします。

表2 摘果時期が「ふじ」の当年及び翌年の果実品質、花芽率に及ぼす影響
(長野果樹試 平12~13年)

摘果時期	当年(平12)			翌年(平13)			
	収量(kg/樹)	平均果重(g)	糖度(%)	花芽率(%)	収量(kg/樹)	平均果重(g)	糖度(%)
あら7+仕60	23.9	348	16.6	75	39.6	327	15.2
あら17+仕60	24.0	311	16.1	59	30.5	305	15.3
あら28+仕60	22.4	309	16.0	44	24.1	303	15.3
あら37+仕60	24.0	311	16.1	28	19.9	318	15.6
あら51+仕60	24.8	269	16.1	20	12.3	299	15.3
仕60	24.9	290	16.4	25	16.6	329	14.9
仕74	23.7	281	16.5	4	3.3	255	14.7
仕94	21.2	280	16.7	2	1.1	297	14.7
対照区(無摘果)	53.4	189	13.8	2	2.6	310	14.8

摘果時期: あら摘果+仕上げ摘果の満開後日数を示す。仕のみは摘果を1回で実施した。

あら摘果: 頂芽の側果およびえき芽果の全果を摘み取った。

仕上げ摘果: 葉果比50~60の基準で摘果した。

翌年(平13)の摘果: 全区ともあら摘果満開30日後、仕上げ摘果満開60日後に実施した。

(2) 摘果の留意点

- ア 最初に、1果そう1果とするあら摘果を実施します。その際、不要な果そうの果実を積極的に除いていきます。その後、果実肥大や品質を確認しながら仕上げ摘果を進めます。
- イ 摘果終了の目安は表3の通りで、平年より開花期がやや早いことから、落花30日後は6月中旬頃になります。作業を計画的に進め、早期摘果を心がけてください。
- ウ 三角実や扁平果など、果形の悪い果実、病虫害果、傷果を中心に摘果していきます。
- エ 果実は横の発育が良く、果硬が太くて長い正形果を残します。
- オ 果台が極端に長いもの(25mm以上)や短いもの(10mm以下)は、斜形果の発生割合が高くなるので、できるだけ摘果します。

表3 品種別作業手順

項目	品種	摘果完了時期
早期に行う品種	ふじ、つがる、王林、きおう、さんさ	落花25日後
後期に行う品種	ジョナゴールド、紅玉	落花30~35日後

3 病虫害防除

- (1) 病虫害防除所の発生現況情報（平成 26 年 4 月 30 日発行）によると、各病虫害とも全般的に平年並から少ない状況です。
 しかし、ハダニ類は気温の上昇とともに増える可能性があり、既に増加傾向にある園地が散見されます。新梢葉で寄生葉率が 30%に達したら、速やかに防除を行ってください。
 腐らん病の発生園地では、病患部を発見次第、切除、削り取るなど処置を施します。
- (2) 斑点落葉病や褐斑病、炭そ病は、これから梅雨期に入り、感染が増加する時期ですので、天気予報等を参考に降雨前の予防散布に努めましょう。
 また、キンモンホソガ、モモシクイガの発生時期となります。病虫害防除所が発表する情報を参考に、適期防除に努めましょう。
- (3) 交信かく乱剤を導入する園地では、6月上旬までに剤を設置します。その際は、必ずフェロモントラップを設置して、随時交信かく乱効果を確認しましょう。
- (4) 平成 22 年に県内で初めて確認されたヒメボクトウの被害が、県中南部を中心に広がっています。幼虫が枝幹内を食害する難防除害虫です。被害を受けた枝や主枝は、新たな発生源とならないよう早期に除去しましょう。

ぶどう

1 生育概況（表 4）

紫波町赤沢の定点観測によると、「キャンベル」の発芽は 5 月 1 日、展葉は 5 月 8 日と平年より 2 日早まっています。これは 4 月から 5 月上旬にかけて気温が高めに推移したためと考えられます。発芽・展葉が早まったことで、新梢長は調査開始時（5 月 26 日）で平年の 122%でのスタートとなりました。今後も気温は平年並からやや高めに推移との予報から、開花は平年並みからやや早くなると考えられます。

これから開花期にかけては管理作業が重なり忙しくなります。計画的に作業を進めましょう。

表 4 ぶどう(キャンベルアーリー:短梢)の生育状況(定点観測地点:紫波町)

調査年次	生態(月/日)					5月26日	
	発芽期	展葉期	開花期			新梢長 (cm)	節数 (葉数)
			開花始	満開期	落花期		
本年(H26)	5/1	5/8				30.2	5.0
平 年	5/3	5/10	6/15	6/18	6/22	24.7	4.9
前年(H25)	5/11	5/15	6/12	6/14	6/18	15.8	3.7
平年比	-2	-2				122%	102%
前年比	-10	-7				191%	135%

2 管理の要点

(1) 新梢の誘引

展葉 7～8 枚頃に、2 回目の芽かき作業に合わせて良く伸びた新梢から誘引します。

(2) 花穂の整理

ア 「キャンベル」、「ノースレッド」

開花前に 3 穂着生している新梢については、1 穂落として 2 穂とし、全体で目標着房数の 1～2 割増の着生数とします。

イ 「紅伊豆」、「ハニーブラック」、「安芸クイーン」

最終房数は 1 新梢 1 房とします。摘房の時期は、新梢の強弱を判断して強勢のものほど摘房を遅らせ、着色期を目途に最終着房数とします。

(3) 花振るい防止

ア 「キャンベル」は、強めの新梢を開花 7～4 日前に房先 5～7 枚の葉を残して摘心します。

イ 大粒種で花振るいが強い品種や園地では、メピコートクロリド液剤（フラスター液剤）を使用することにより花振るいを軽減できます。使用の際は、登録内容を十分に確認し、使用時期や希釈倍率に注意して使用してください。

(4) 花穂の整形 (図2)

- ア 「キャンベル」では、摘心作業と同時に花穂の副穂を切除し、下端を切り詰めます (尻止め)。
 また、主穂が長すぎる場合は上段の枝梗を1~2段切除します。
- イ 「紅伊豆」などの大粒種は、1~2輪開花し始めた頃から先端部を切り詰めます。「紅伊豆」では副穂を切除し、主穂の基部から4~6段を切除して10~13段程度を残すように整形します。
- ウ 「サニールージュ」では開花初期 (副穂の開花が始まった頃) に副穂を除去し (長い花穂は上部支梗を1~3段除去)、花穂の長さを概ね7~8cmとします。なお、花穂の先端は切り詰めません。
- エ 「シャインマスカット」では開花初期 (副穂の開花が始まった頃) に副穂と上部支梗を切除し、花穂の長さを概ね4cmとします。花穂の先端は切り詰めません。また、花穂先端が2つに分かれ使えない場合は、第1枝梗を利用します。

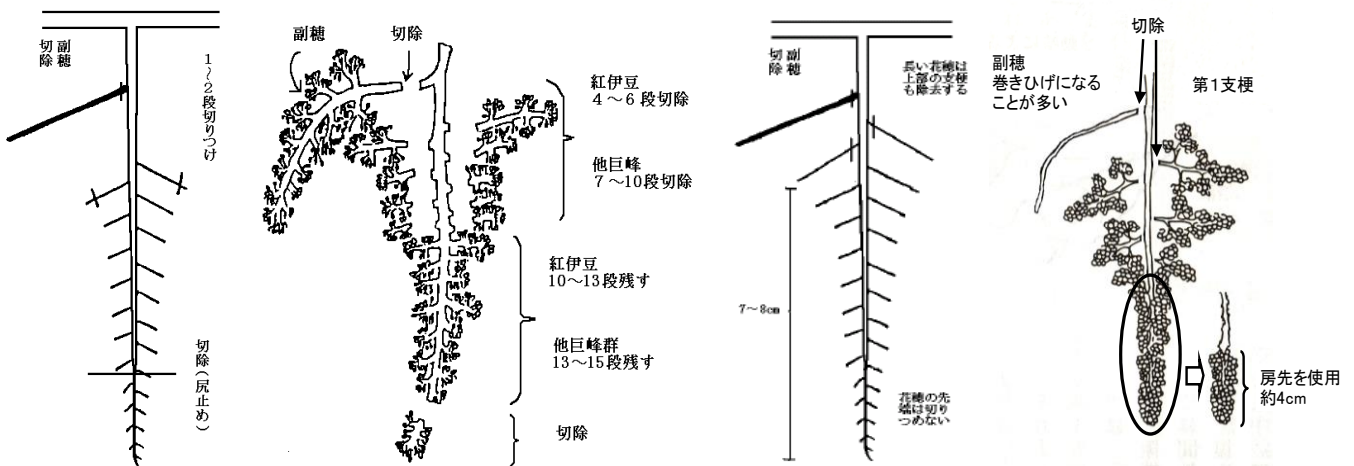


図2 花穂の整形 (左からキャンベルアーリー、紅伊豆等大粒種、サニールージュ、シャインマスカット)

(5) ジベレリン処理

「デラウエア」や「アーリースチューベン」は開花前後の2回、ジベレリン処理することで、無核で果粒の肥大した早熟の果房が得られます。

「安芸クイーン」などの「巨峰系4倍体品種」、「サニールージュ」、「シャインマスカット」は無核化とともに果粒肥大促進を目的として利用されますが、樹勢が強く花振るいが多い場合、ジベレリン処理により着粒数を増加させることができます。また、「シャインマスカット」では、満開14日前~開花までの間にストレプトマイシン液剤 (商品名: アグレプト液剤、ストマイ液剤20) を散布することで無核化率が向上します。

なお、ジベレリンやストレプトマイシン液剤を使用する際は登録内容を確認して利用ください。

3 病虫害防除

(1) ぶどうの開花期前後は、灰色かび病の発生時期です。生育ステージに合わせて、適期防除に努めましょう。なお、灰色かび病等の薬剤抵抗性回避のため、同一系統薬剤の連用はしないよう注意してください。

(2) 露地栽培で有袋栽培をする場合、防除後、薬剤が乾いたら速やかに袋かけをしましょう。

春の農作業安全月間実施中! [4月15日]
 [~6月15日]
 豊作を無事故で迎える いわたの農業!

次号は6月26日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。